

会員の皆様、こんにちは。

1月に始まった通常国会も、予算案が衆議院を通過し参議院に送られました。広く報じられている通り、来年度の予算案は100兆円を超えています。複雑多様化する社会において多くの施策が必要とされた結果です。施策の中には、社会的不利益を減じる取組みも含まれており、本日はご紹介する「花粉症対策」などもその一つです。奏功すれば我が国の生産性向上にも資することでしょう。キーワードは「はなこさん」「はるよこい」です。

石田まさひろ政策研究会

花粉症への取組み「はなこさん」「はるよこい」

■国民病となったアレルギー症

3月に入り本格的な春が待たれる時期となった。各地から梅の便りや、菜の花満開の報がもたらされる。しかし、それと同時に日々の気象情報の中に、花粉の飛散状況が加わっている。花粉症をお持ちの方には文字通り頭の痛い季節到来というわけだ。筆者も花粉症持ちで、春はスギ、秋はブタクサと、もはや一年中アレルギー薬を飲んでいる。かつ目薬の点眼も欠かせない。

今や、日本人の3人に1人は何らかのアレルギーを持っているといわれる。花粉だけではない。食品や芳香剤に含まれる化学薬品、壁材の化合物だの現代人を取り囲むアレルゲンから逃れようもない。もはや国民病ともいえるアレルギーだが、うまくつきあっていくしかないのだろうか。

そのような中、環境省では、花粉自動計測器を全国120地点に配置し、リアルタイムで観測した花粉の飛散状況について、毎年、情報提供している。この観測システムの名前は「はなこさん」。

本年は2月1日(金)から稼働させ、ホームページ(<http://kafun.taiki.go.jp/>)で花粉飛散の情報提供を行っている。

■環境省花粉観測システム「はなこさん」

花粉症に悩まされている方々にとって、「はなこさん」とは拍子抜けするようなかわいらしい名前だが、そのシステム内容はなかなかのものだ。

<システムの概要>

(1) 花粉観測地点 全120地点

花粉の観測地点は、主として、人口が密集している都市部で、これまでに環境省が花粉自動計測器を設置した場所は120地点に上る。



(2) 計測

花粉自動計測機は、1時間平均の花粉数＝1立法平米当たりの花粉個数を観測し、リアルタイムで国民にホームページによりお知らせする。

花粉飛散状況とともに、山間部から都市部への花粉の移動を支配する風向、風速の状況、測地点近隣における気温、降水量の状況をリアルタイムで把握することができる。これらのデータを上手く活用し、花粉症の方が、花粉ばく露からの回避行動や予防対策をとることにより、症状の緩和に役立てていただくことが目的だ。

以前は、固定式の採取器で1日1回採取して、顕微鏡で花粉数を数える方法が用いられていたが、近年、レーザー光を利用して計測する自動測定器が開発されたためこのシステムが実用化されることとなった。

■無花粉スギ「はるよこい」

また、農林水産省においては、花粉発生源対策として、「3本の斧」という施策を打ち出している。すなわち以下の3つである。

- (1) 「伐って利用します」花粉を大量に飛散させるスギ人工林を伐採・利用する。
- (2) 「植え替えます」花粉の少ない苗木等による植替えや広葉樹の導入を進める。
- (3) 「出させません」スギ花粉の発生を抑える技術の実用化を図る。

特に3番目の「出させません」についてご紹介しておきたい。平成4年、富山県農林水産総合技術センター森林研究所は全

く花粉を飛散させない、無花粉スギを発見した。このスギは外見上、普通のスギと変わらず、雄花も同様に形成されるのだが2月下旬から3月上旬の開花する時期になっても、雄花に花粉が全く生成しない。さらに花粉を作る雄花の機能は異常でも、種子を作る雌花の機能は正常であることも分かった。この無花粉スギをもとに交配し、品種改良が行われ、「花粉がない」「さし木の発根能力が高い」という特徴を持った新品種が生み出された。その名を、「はるよこい」という。

この後、環境庁の「はなこさん」と林野庁の「はるよこい」の連携で、花粉症対策がさらに進むことを期待したい。



ペンネーム：くしゃみ

このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。ご意見は info@masahiro-ishida.jp までお寄せください。

【配信停止・設定変更】本メールサービスの解除を希望する方は、石田まさひろ政策研究会までご連絡ください。

【配信元】石田まさひろ政策研究会 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-1-1

Copyright© Masahiro ISHIDA all Rights Reserved ---掲載記事の無断転載を禁じます---